

がちょうのたんじょうび

新美南吉

ある おひやくしょうやの うらにわに、あひるや、がちょうや、もるもつとや、うさぎや、いたちなどが、すんで おりました。

さて、ある ひの こと、がちょうの たんじょうびと いうので、みんなは がちょうのところへ ごちそうに まねかれて いきました。

これで、いたちさえ よんで くれれば、みんな おきやくが そろうわけですが、さて、いたちは どうしましょう。

みんなは、いたちは けっして わるものではない ことを して おりました。けれど、いたちには たったひとつ、よくない くせが ありました。それは、

おおぜいの まえでは、いう ことが できないような、くせで ありました。なにかと もうしますと、ほかでも ありません。

おおきな はげしい おならを する ことで あります。

しかし、いたちだけを よばないと、いたちは きっと おこるに ちがひ ありません。

そこで、うさぎが いたちの ところへ つかいに やつて いきました。

「きょうは、がちょうさんの たんじょうびですから、おでかけ ください。」

「あ、そうですか。」

「ところで、いたちさん、ひとつ おねがひがあるのですが。」

「なんですか。」

「あの、すみませんが、きょうだけは、おならを しないでください。」

いたちは はずかしくて、かおを まっかに しました。

そして、

「ええ、けっして しません。」

とこたえました。

そこで いたちは やって きました。

いろいろな ごちそうが できました。おからや、にん
じんのしつぽや、うりの かわや、おぞうすいや。

みんなは たらふく たべました。 たちも ごち
そうに なりました。

みんなは いい ぐあいだと おもって いました。
いたちが おならを しなかつたからで あります。

しかし とうとう たいへんな ことが おこりまし
た。いたちが とつぜん ひつくりかえって、きぜつし
て しまったのです。

さあ、たいへん。さつそく、もるもつとの おいしや
が、いたちの、ぼんぽこに ふくれた おなかを しん
さつしました。

「みなさん。」

と もるもつとは、しんぱいそうに して いる みんな
の かおを みまわして、いいました。

「これは、いたちさんが、おならを したいのを あま
りがまんして いたので、こんな ことになつたの

です。

これを なおすには、いたちさんに おもいつきり
おならを させるより しかたは ありません。」

やれやれ。みんなの ものは ためいきを して、
かおを みあわせました。

そして、やっぱり いたちは よぶんじゃ なかつた
と おもいました。

「がちょうのたんじょうび」

※『新美南吉幼年童話 集団読書テキストⅡ』(2010年12月、半田市教育委員会)の「がちょうのたんじょうび」をもとに編集しました。

※このテキストを個人的に読む以外の利用をされる場合には、新美南吉記念館までご連絡ください。(TEL: 0569-26-4888)